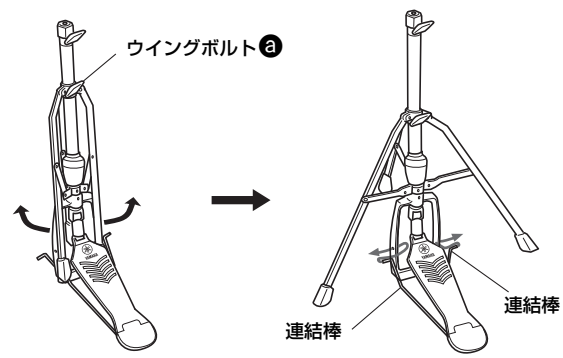




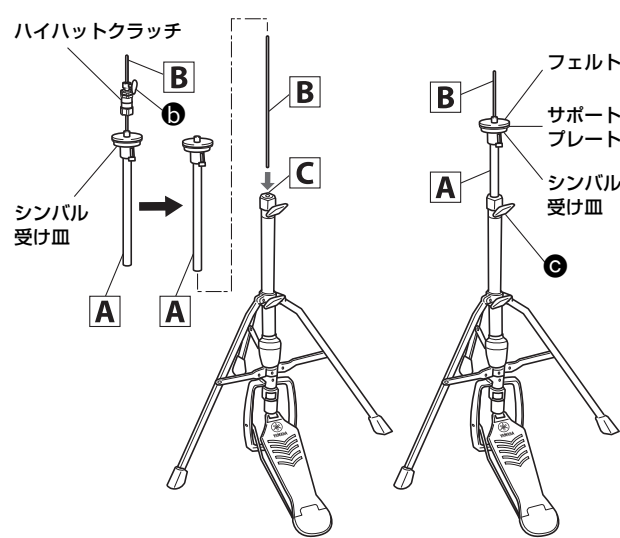


## ハイハットスタンドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
2. ハイハットスタンドのウイングボルト(下図④)をゆるめます。
3. 下図のように三脚部を広げ、手順2でゆるめたウイングボルトを締めて固定します。
4. 下図のように連結棒をフレームの穴に差し込みます。

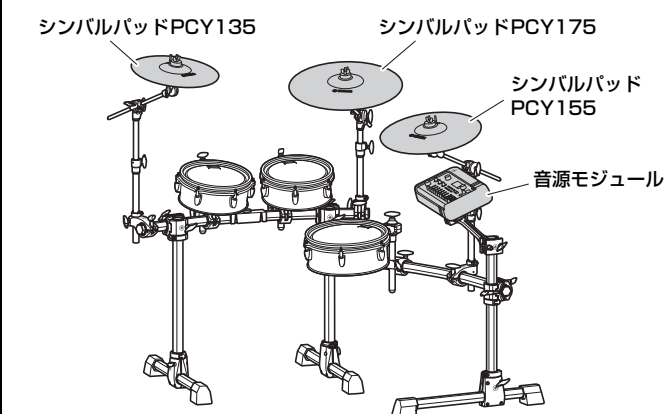


5. ハイハットクラッチのウイングボルト(右図⑤)をゆるめてハイハットクラッチを外します。  
※このハイハットクラッチは本書の標準的な組み立て例では使用しません。RHH135付属のハイハットクラッチを使用します。
6. 上パイプ[A]からハイハットシャフト[B]を引き抜きます。
7. 手順6で引き抜いたハイハットシャフト[B]を下パイプ[C]のナットにねじ込みます。
8. 上パイプ[A]をハイハットシャフト[B]の上から差し込み、シンバル受け皿がハイハットシャフト[B]の中間となる位置でウイングボルト(右図⑥)を締めて固定します。
9. シンバル受け皿の上に乗っているフェルトを外します。  
※サポートプレートは外さないでください。  
※このフェルトは本書の標準的な組み立て例では使用しません。付けたままにしておくと適切な演奏感が得られなくなりますので、必ず外してください。



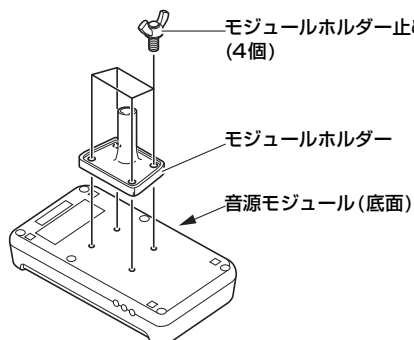
10. リアルハイハットパッドRHH135を取り付けます。  
※RHH135取扱説明書の「セッティングのしかた」をご覧ください。

## 音源モジュール/シンバルパッドの取り付け

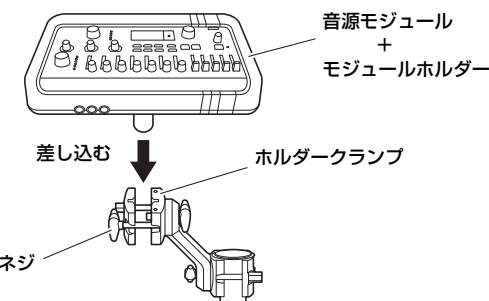


### ■音源モジュールの取り付け

1. 音源モジュールに付属のモジュールホルダー止めネジを使って、音源モジュール底面にモジュールホルダーを取り付けます。

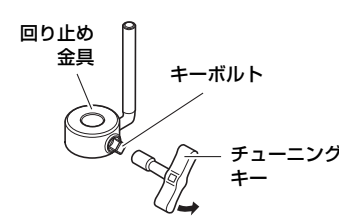


2. モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、締付ネジを締めて固定します。

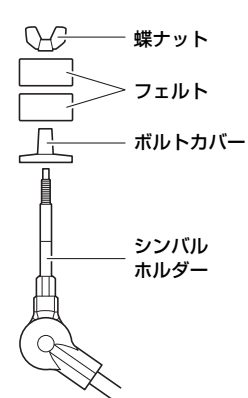


### ■シンバルパッドの取り付け

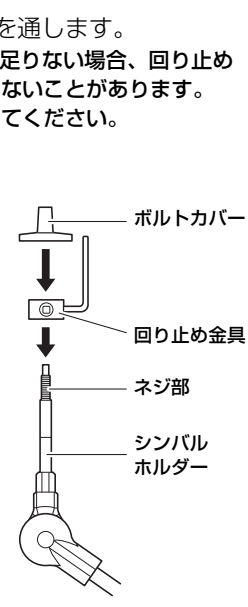
1. 回り止め金具のキーボルトを、チューニングキーを使ってゆるめます。



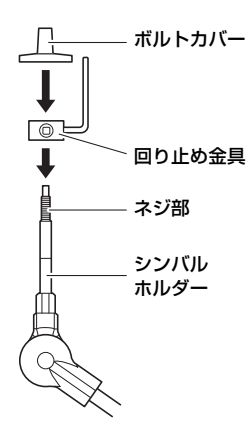
2. シンバルホルダーから、蝶ナット、フェルト(2個)、ボルトカバーを外します。



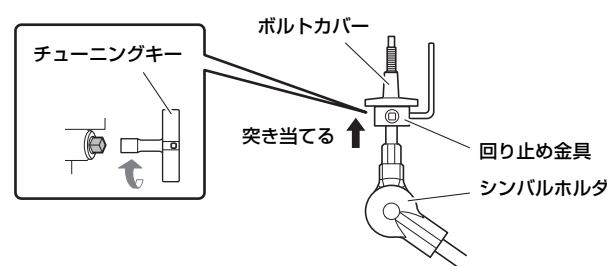
3. シンバルホルダーに回り止め金具を通します。  
※手順1でキーボルトをゆるめる量が足りない場合、回り止め金具の穴にシンバルホルダーが通らないことがあります。キーボルトが外れない程度にゆるめてください。



4. ボルトカバーを取り付けます。  
※ボルトカバーは、回転させながらネジ部にねじ込み、しっかりと固定させます。



5. 下図のように、回り止め金具をボルトカバー下面に当てる状態にし、チューニングキーを使ってキーボルトを締め、固定します。

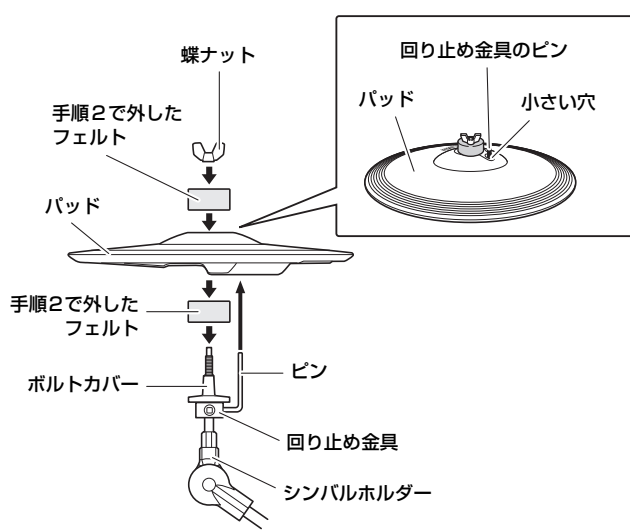


6. シンバルホルダーに、手順2でシンバルホルダーから外したフェルトを1つ通します。

7. パッドを取り付けます。シンバルホルダーの先端をパッド中央の穴に通し、回り止め金具のピンをもうひとつの小さい穴に通します。  
※回り止め金具のピンがシンバルパッドの小さい穴に十分に届いていない状態で演奏すると、ピンが穴から外れる可能性があります。回り止め金具は、必ず手順5で指定している位置に固定してください。

8. 手順2でシンバルホルダーから外したもう1つのフェルトを取り付けます。

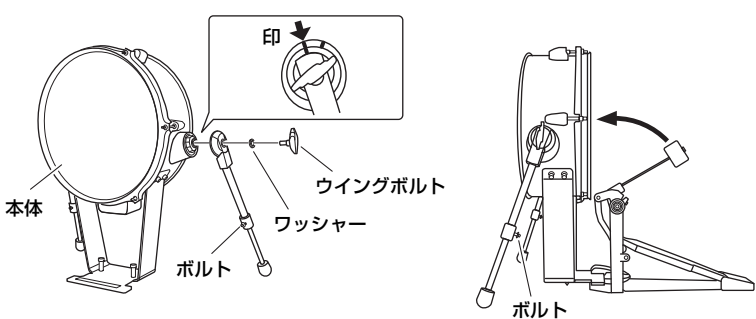
9. 蝶ナットを締めてパッドとシンバルホルダーを固定します。



## キックパッドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
2. 左右の脚を本体に組付けます。下図のように、ボルトが手前に来る向きで、レッグとレッグ台座についている印を合わせ、ワッシャーを通したウイングボルトで固定します。

**NOTE**  
フットペダル(別売)の取り付けについては、KP128取扱説明書の「KP128の組み立て方」をご覧ください。

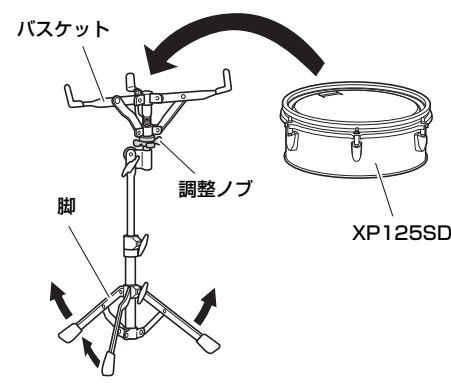


### 【注記】

故障や誤動作を防ぐため、演奏前にヘッドにガタつきやたるみがないよう調整してください。詳細は、KP128に付属の取扱説明書をご覧ください。

## スネアスタンドとスネアパッドの組み立て

1. スネアスタンドの脚を開き、床に置きます。
2. スネアスタンドのバスケット部を拡げスネアパッドをのせたら、バスケットを調整し、スネアが動かないように調整ノブを締めて固定します。



### 【注記】

故障や誤動作を防ぐため、演奏前にヘッドにガタつきやたるみがないよう調整してください。詳細は、XP125SD-X XP125SD-Mに付属の取扱説明書をご覧ください。

4. 本紙おもて面の『標準的な組み立て例』を参考に、ハイハットスタンド、キックパッド、スネアスタンドを配置します。

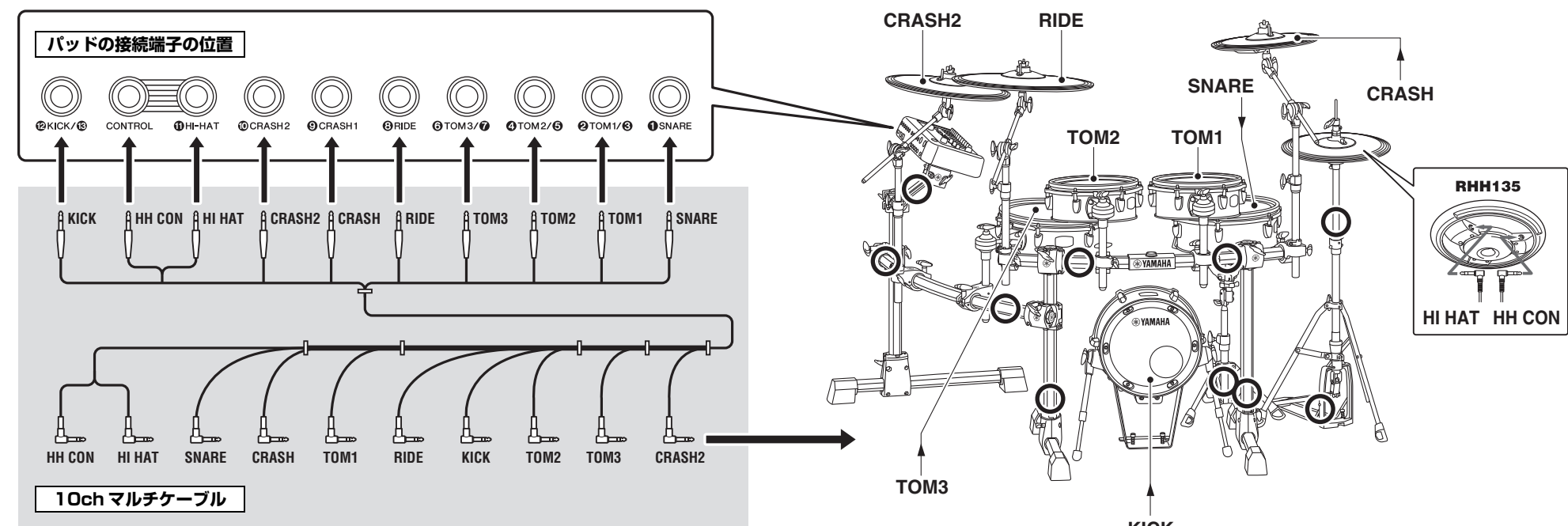
### 【注記】

- 別売のドラムマットがある場合には最初に床に敷いてください。ドラムマットが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐためハイハットスタンドとキックパッドの下に梱包材の段ボールなどを敷いてください。
- キックパッドと当たるのを防ぐため、電子ドラムラックの支柱(中央)の高さを下げ過ぎないようにご注意ください。

5. パッドと音源モジュールを接続します。

パッドの出力を音源モジュールのパッド入力に接続し、配線します。

1. 音源モジュールのリアパネルのトリガー入力端子に、10chマルチケーブルのストレータブラグを差し込みます。  
• 標準セットアップでは、各プラグのシールに印字されているパッド名の記号に合わせて10chマルチケーブルを接続します。
2. 10chマルチケーブルのL字プラグを各パッドの端子に差し込みます。
3. スネアパッド、タムパッド、シンバルパッド、ハイハットパッドは、ケーブルが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。  
**【注記】** コードフックに巻きつける際、ケーブルを極端に折り曲げないでください。断線の原因となります。



4. ケーブルバンドを使い、右図の○位置を参考にケーブルをラックに沿わせて固定します。

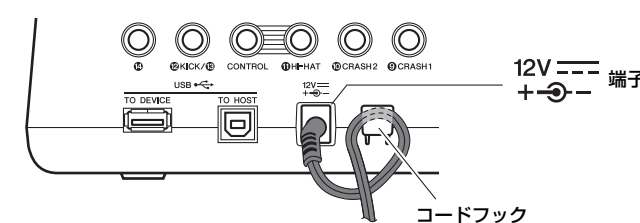
音源モジュールに近いほうからケーブルバンドを止めると、綺麗にセッティングできます。

6. 音源モジュールに電源アダプターを接続します。

1. 電源アダプターのDCプラグを端子に接続します。電源コードが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

### △注意

コードフックに巻きつける際、電源コードを極端に折り曲げないでください。断線の原因となります。



2. 電源アダプターのもう一端(電源プラグ)を家庭用(AC100V)コンセントに接続します。

7. 音源モジュールの設定をします。

お使いの製品に合わせて、音源モジュールのDTX-PROXのトリガーセットアップで「DTX10K-X」または「DTX10K-M」を選択してください(トリガーセットアップの選択手順については、DTX-PROX取扱説明書の「初期設定(トリガセットアップウィザード)」をご覧ください)。

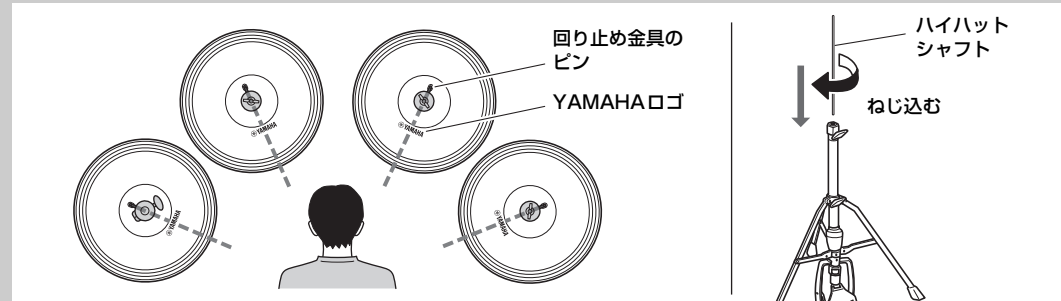
### 【重要】

お使いの製品品番の末尾が“-X”はTCSパッド関連製品、“-M”はメッシュパッド関連製品を表します。これらの製品はドラムを叩いたときの検出方式が異なるため、製品に合ったトリガーセットアップを選ばないと適切な演奏感が得られません。製品に合ったトリガーセットアップをお選びください。

- **キックパッドの出力(LEVEL)調整：**  
キックパッドKP128のレベル調整つまみで、トリガー出力をお好みの大きさに調整してください。詳しくはKP128取扱説明書の「出力調整」をご覧ください。

### 【重要】

- YAMAHAロゴに近い位置を叩くと、快適な演奏感が得られます。自然にYAMAHAロゴ付近を叩けるよう、シンバルパッド/ハイハットパッドの位置を調整してください。シンバルパッド/ハイハットパッドのYAMAHAロゴが、演奏者の位置から見て正面に見えるのが正しいセッティング位置です。右図を目安に、回り止め金具の向きを調整することで、シンバルパッドの向きが適切になります。また、ハイハットクラッチの取り付け向きを調整することで、ハイハットの向きが適切になります。
- 使用しているうちにハイハットシャフトがゆるみ、ハイハットパッドが回転することがあります。性能が十分になくなることがありますので、ハイハットシャフトを定期的にねじ込み、ハイハットパッドの位置を調整し直してください。



これで組み立ては完了です！ 実際に音を出すなど、これ以降の手順については、音源モジュールの取扱説明書をご覧ください。